市町村名	今帰仁村

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	１－①	今帰仁村健康長寿体験滞在型観光の促進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章ー2ー(1)ーア
					健康・長寿おきなわの推進
担当部課名	福祉保健課	事業実施（予定）年度	平成24年度～26年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲー1ー(1)

事業内容

・沖縄県第2の長寿村である今帰仁村は、「ヘルスツーリズム」を推進し、民泊事業等による観光の振興を図ることとしている。本事業では、住民へのアンケートや会議を通し長寿の秘訣を探り、健康長寿基本システムを構築することで、体験滞在型観光を促進する。

実施方法

■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	7,183				
	(b) 予算現額	7,183				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	ー				
	A. 計 (b+d)	7,183				
B. 執行済額		4,836				
うち交付金充当額		3,868				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		67.3%				

予算の状況の説明

・当初計画していた事業内容のうち、アンケート調査と作戦会議は計画通り実施した。ヘルスツーリズムを目標とした栄養士指導と食生活改善・運動指導士による指導、健康長寿基本システム構築のためのアンケート調査結果に基づく集計を当初計画のとおり進めることができなかった。

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
健康長寿システム構築に向けたアンケート調査	目　標	（1,987件）	（　）	（　）	（　）
	実　績	1,847件			
健康長寿作戦会議	目　標	（2回）	（　）	（　）	（　）
	実　績	2回			

達成状況説明

・健康長寿基本システム構築のためのアンケート調査を行なった。また、健康長寿作戦会議の開催と併せて、作戦支援隊として村長、保健師、健康づくり推進委員、支援大学教授等を派遣し、住民と共に村全体と地域での生活に根ざした健康づくりプログラムについて、村観光協会とヘルスツーリズムの組織づくり、ツアープログラムづくり等について研修会が開催された。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（27年度）
健康長寿システム構築に向けたアンケート調査 健康長寿作戦会議	目　標	（0） （0）	（1,987件） （3回）	（　）	（　）	（健康長寿システム構築） （5回）
	実　績		（1,847件） （2回）			
【参考指標】 主要観光施設における観光客数	目　標	（248500人）	（261000人）	（　）	（　）	（300000人）
	実　績		249998人			

進捗状況説明

・健康長寿基本システム構築のためのアンケート調査を行い回収率は93%であった。健康長寿システム構築のための基礎データの収集は目標の90%を上回った。健康長寿作戦会議は、地区での会議を開催することができなかった。

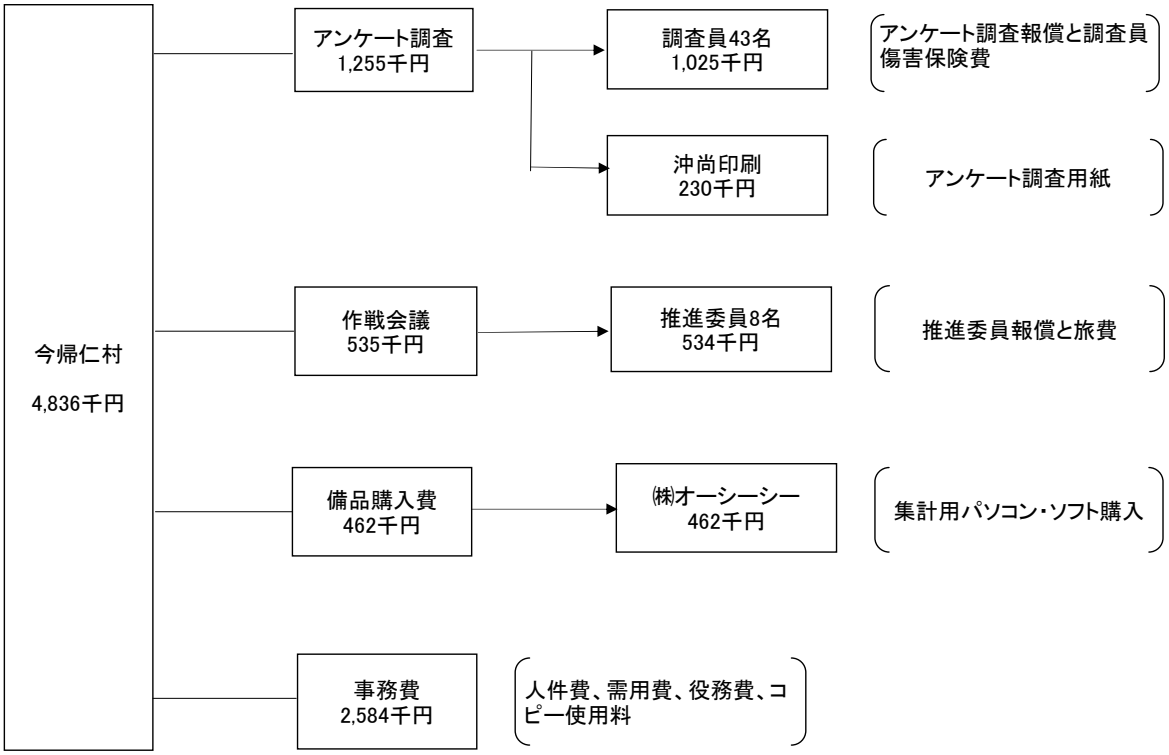
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・健康長寿体験滞在型観光の促進に向けて、観光協会と受け入れ態勢を整備し、この事業を村民と地域課題として共有し、地域活動延長戦上の事業促進と企画商品化を図る。	・健康長寿アンケート調査結果から将来への健康長寿村への方向性を村民と共有し、健康づくりの日常的実践による村民の健康寿命の延伸へと繋げる。また、観光協会の民泊登録世帯との連携と、村民の日常的健康習慣メニューを訪れた観光客にわかりやすく提供し互いに実践する。

今後の取り組み方針

・沖縄の個性を活かした健康づくり教室を開催し、併せて個々の健康状態に即した今帰仁村の伝統食提供の調査研究を進める。この健康づくり教室と食の提供をベースに村民の健康づくりを進め、併せて健康づくり地域活動の延長線上で行われる健康長寿体験滞在型観光プログラムをヘルスツーリズムとして提供する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,836	4,836	3,868	968	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○費目・使途については事業目的どおり行えた。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	今帰仁村

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	２－①	指導用情報機器購入事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章ー5ー(3)ーア 自ら学ぶ意欲を育む教育の充実
担当部課名	教育委員会　学校教育課	事業実施（予定）年度	平成２４年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲー3ー(1)

事業内容	・教職員指導用ノートパソコン、タッチパネル等を導入し、電子教科書を活用した学習が可能となり児童・生徒の学習意欲の向上を図る。
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	22,740				
	(b) 予算現額	22,740				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	―				
	A. 計 (b+d)	22,740				
B. 執行済額		19,137				
うち交付金充当額		15,309				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		84.2%				

予算の状況の説明	・不用額が3，603千円発生しているが、見積額の減や入札残によるものであり、計画していた事業内容は小学校のデジタル教科書を除いて概ね実施した。

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
・教育用情報機器配布学校数 ・小学校：3校 ・中学校：1校	目　標	（小学校：3校 中学校：1校）	（　）	（　）	（　）
	実　績	小学校：3校 中学校：1校			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明	・小学校3校へノートパソコン28台、タッチパネル24台、電子教科書（国語・算数）、中学校1校へはノートパソコン19台、タッチパネル1台、電子教科書（国語・社会地理・音楽・技術家庭・英語）等の教育用情報機器の配布ができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（　年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
・教育用情報機器配布学校数 ・小学校：3校 ・中学校：1校	目　標	（　）	（小：3校 中：1校）	（　）	（　）	（　）
	実　績		小学校：3校 中学校：1校			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明	・小学校3校へノートパソコン28台、タッチパネル24台、電子教科書（国語・算数）、中学校1校へはノートパソコン19台、タッチパネル1台、電子教科書（国語・社会地理・音楽・技術家庭・英語）等の教育用情報機器を配布することで電子教科書を活用した学習が可能となり児童・生徒の学習意欲の向上を図ることができた。

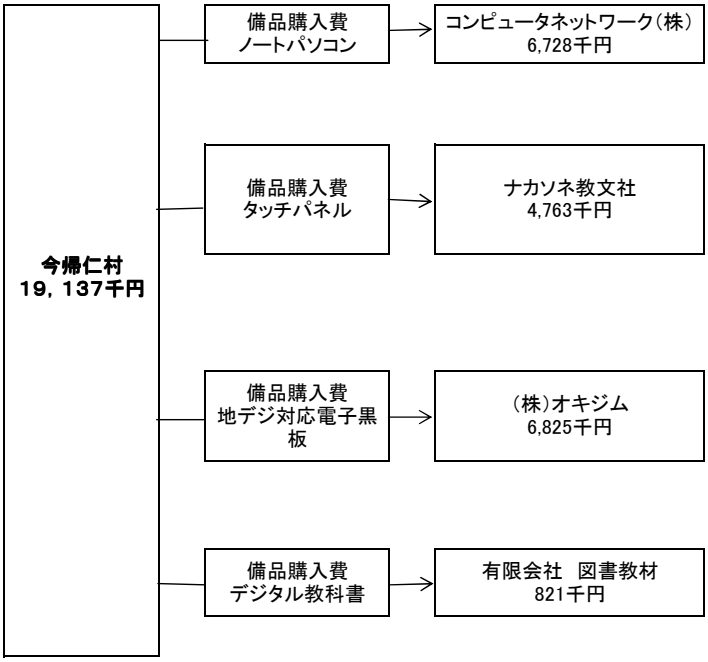
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・基本的な教科の電子教科書を導入したが、授業の殆どを電子教科書で進める事のないように留意しながら授業を行う。	・電子教科書と紙教科書とメリハリのある授業を進める。

今後の取り組み方針

・小学校のデジタル教科書は、国語と算数を整備したが社会・理科・音楽等の教科を整備する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
19,137	19,137	15,309	3,828	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○　費用・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	今帰仁村

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	２－②	学習指導要領に準拠した改正版の副読本の作成事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章ー5ー(1)ーア 沖縄らしい個性を持った人づくりの推進
担当部課名	教育委員会　学校教育課	事業実施（予定）年度	平成２４年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲー3ー(1)

事業内容

・学習指導要領に準拠した副読本を作成することにより、小学校3・4年生の社会科の学習で郷土についての幅広い知識を身につけることができる。

実施方法

■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	2,608				
	(b) 予算現額	2,608				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	ー				
	A. 計 (b+d)	2,608				
B. 執行済額		2,608				
うち交付金充当額		2,086				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		100.0%				

予算の状況の説明：・予算執行については、適正に行われた。

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
副読本の作成	目　標	（　副読本の作成　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	副読本の作成実施			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：・編集委員会を設け資料等を検証し、副読本を600冊作成することができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（　年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
副読本配布学校数 小学校3校	目　標	（　）	（配布学校 小学校3校）	（　）	（　）	（　）
	実　績		小学校3校 実施			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：・副読本を600冊作成し、小学校3校の3・4年生へ配布することで、郷土についての幅広い知識を身につけることができた。

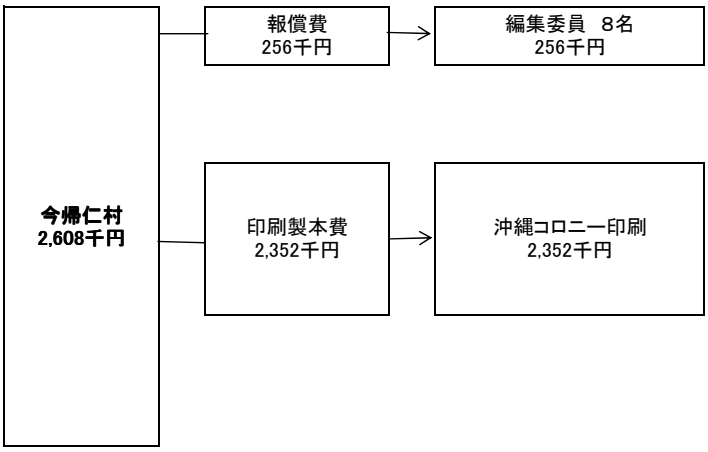
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・郷土について幅広い知識を身につける。	・今帰仁村を生活の場として認識し、自然や文化、社会の条件と関連させながら学習を行い、知識の向上を図る。

今後の取り組み方針

・副読本の配布：小学校3校
今帰仁村を生活の場として認識し、自然や文化、社会の条件と関連させながら学習を行い、知識の向上を図る。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,608	2,608	2,086	522	



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○　費用・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	今帰仁村

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	２－③	吹奏楽楽器購入事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章ー5ー(1)ーア 沖縄らしい個性を持った人づくりの推進
担当部課名	教育委員会　学校教育課	事業実施（予定）年度	平成２４年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲー3ー(1)

事業内容

・吹奏楽に必要な楽器を整備することにより、村内の祭りやスポーツイベント、式典などの多様な場面において、演奏活動を行うことが可能となり、今帰仁村の教育・文化・観光産業に寄与する。

実施方法

■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	7,523				
	(b) 予算現額	7,523				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	ー				
	A. 計 (b+d)	7,523				
B. 執行済額		7,508				
うち交付金充当額		6,006				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		99.8%				

予算の状況の説明：・予算内での適正な執行ができた。

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
吹奏楽楽器の整備：27個	目　標	（　中学校：27個　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	中学校：27個			
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明：・中学校へ吹奏楽器の整備として27個を購入したことにより、村内の祭り、イベントへ参加でき、盛り上げることができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（　年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
吹奏楽楽器の整備：27個	目　標	（　　）	（中学校：27個）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		中学校：27個			
【参考指標】	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明：・中学校へ吹奏楽器の整備として27個を購入したことにより、村内の祭り、イベントへ参加でき、盛り上げることができた。

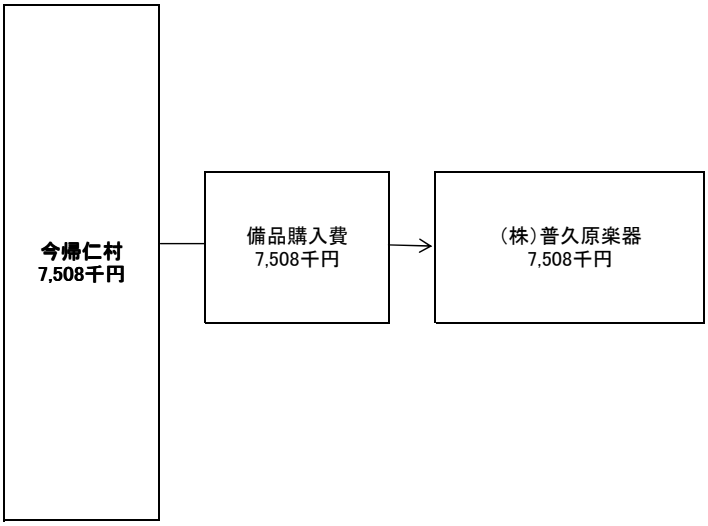
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・平均的な価格の楽器を購入及び整備することに努める。	・村の行事・イベント等への参加については、今後も積極的に行い継続して実施する。

今後の取り組み方針

・中学校と一緒に、祭りやスポーツイベント、式典等の演奏活動を行うために小学校へ吹奏楽器を購入し、文化・教育等の推進に繋げる。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
7,508	7,508	6,006	1,502	



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○　費用・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	今帰仁村

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	２－④	人材育成事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－(3)－イ 自ら学ぶ意欲を育む教育の充実
担当部課名	教育委員会　社会教育課	事業実施（予定）年度	平成２４～平成３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－(1)

事業内容

・小学生を対象に、山形県酒田市と将来の指導者育成の為、交流事業を行う。南国沖縄県にとって、本州の北に位置する東北地方はまさに「異文化」であり、異なる環境で生活している同年代との交流は子供達の視野の広がりと将来に向けて刺激を与えることができる。

実施方法

■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	7,093				
	(b) 予算現額	7,093				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	7,093				
B. 執行済額		4,692				
うち交付金充当額		3,753				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		66.1%				

予算の状況の説明

・当初予算作成酒田市（山形県）～東京迄の電車賃の積算誤りで超過予算を作成。

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
・派遣生徒数：36人	目　標	（　36人　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	36人			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明

・酒田市との交流を行う前に36人が参加し5日間の事前研修が行えた。 また、本研修も36人が参加し4泊5日で計画通り実施することが出来た。団員36名・引率者10名研修をすべて計画どおり実施することが出来た。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
・派遣生徒数：36人	目　標	（　36人　）	（　36人　）	（　）	（　）	（　360　）
	実　績		36人			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明

・平成24年度36名の定員で募集し36名の団員が決まり、今後も定員の36名は団員として確保出来る状況である。
また、中学生・高校生時にジュニアリーダとして村内の後輩達を指導し、学校生活においても各種部活動でもチームの中心として活躍している。

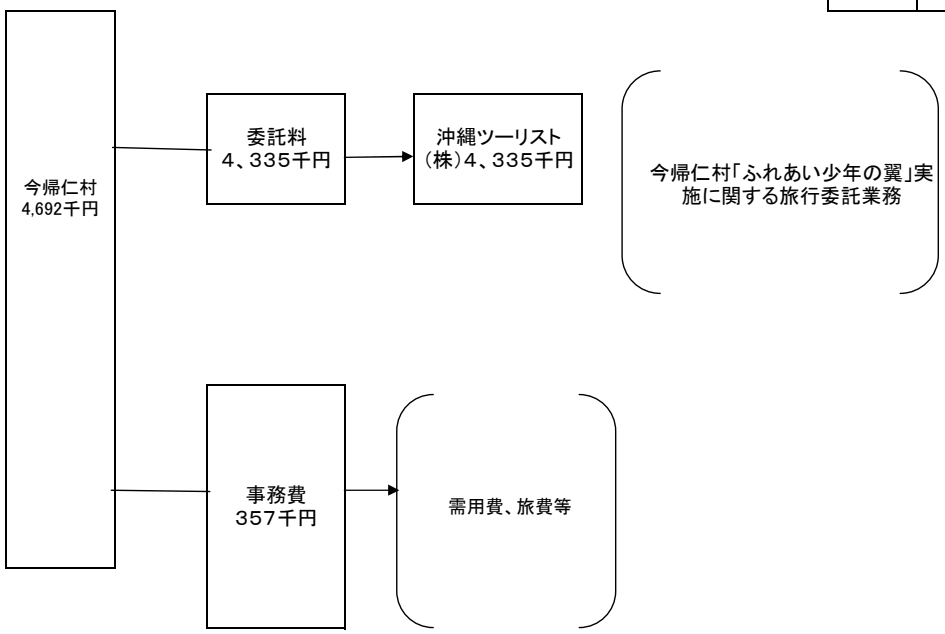
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・事前研修の講習時に、団員に交流校や交流地域の事を時間内に教える事が出来なかった。 ・本村の学校・地域・文化等のPRを図る。	・事前研修時に講義前の打合せ回数を増やし、時間内に講義内容を理解して貰う。さらに、今帰仁の歴史・文化等を理解して貰うために、世界遺産の今帰仁城跡での研修を行う。

今後の取り組み方針

・引率者のメンバーが決まったら、研修の前に打合せを増やす。
・今帰仁の紹介パンフレットや研修時紹介ビデオ等を作成し今帰仁村のPRを行う。
・交流校の家庭一覧や郵便番号・電話番号など、個人情報保護を配慮して対応を行う。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,692	4,692	3,753	939	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○　三者見積入札を行った為次回から一般入札にしたい。 ○　費用・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	今帰仁村

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	２－⑦	未来を担う人材育成事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章ー5ー(3)ーウ 自ら学ぶ意欲を育む教育の充実
担当部課名	教育委員会　学校教育課	事業実施（予定）年度	平成２４年度～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲー3ー(1)
事業内容	・国公立大学に特化した大学進学講座を実施し、進学実績の向上と地域に根ざした特色ある学校づくりの観点から地域教育資源を活用し学力向上と地域の活性化を目指す。				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	775				
	(b) 予算現額	775				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	―				
	A. 計 (b+d)	775				
B. 執行済額		90				
うち交付金充当額		72				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		11.6%				
予算の状況の説明		・685千円の不用額が発生しているが、年度途中での申請。そして年末での事業認定だったため講師への依頼等、対応が遅れてしまった。				

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
講座参加人数：16名	目　標	（　16名　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	16名			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				
達成状況説明	・自宅で勉強していた生徒が主に受講した。3年生5名受講し、3名は進学できた。				

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（　年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
講座参加人数：16名	目　標	（　）	（　16名　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		16名			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					
進捗状況説明	・平成24年12月からスタートの為、自宅で勉強していた生徒が主に受講した。3年生は5名受講し、3名は進学できた。					

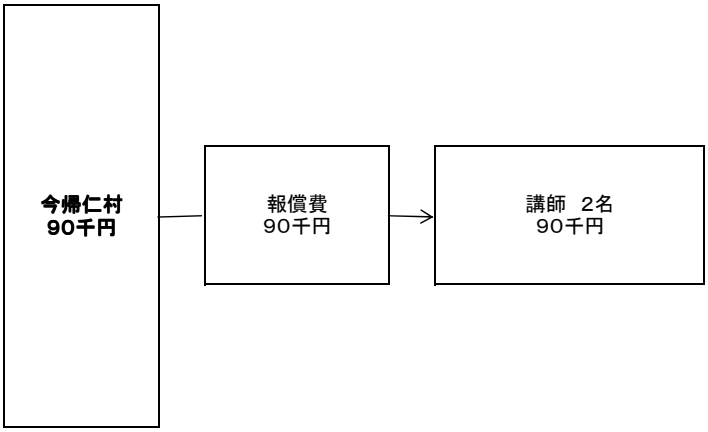
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・年度の早い時期から講師の選定及び依頼を進めると共に、地域・行政・学校側と一体となって行う必要がある。	・国公立に拘るのではなく、私立も含めて進学率を向上に努める。

今後の取り組み方針

・今後は、地域コーディネイター等に依頼し、早い時期から講師の選定及び講義の実施を行う。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
90	90	72	18	



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点　検　項　目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○　費用・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	今帰仁村

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	３－①	景観形成強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章ー3－(2)ーウ 世界水準の観光リゾート地の形成
担当部課名	建設課	事業実施（予定）年度	平成２４年度～２８年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲー1－(1)

事業内容

・今泊区は、世界遺産に登録された今帰仁城跡を抱えた字である。集落は福木並木に囲まれ、中央部には県指定文化財であるコバテイシの大木が息吹く伝統的集落の景観が残っている。
　村が管理する道路の舗装、粉塵防止、防護柵等を整備し、歩行者が安全で歩きやすい歩行空間を確保することで、集落の深部への観光客受入れ体制を整える。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	77,061				
	(b) 予算現額	77,061				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	―				
	A. 計 (b+d)	77,061				
B. 執行済額		72,348				
うち交付金充当額		57,878				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		93.9%				

予算の状況の説明

・不要額が4,713千円発生しているが、委託費及び工事請負費の入札残によるものであり、当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
歩きやすい歩行空間の確保	目　標	（　2.2km　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	2.2km			
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明

・景観に配慮し、観光客が安全に歩行しやすい道路整備（舗装工事、防護柵設置工事）を実施した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（　年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
快適な観光アクセスルートの整備	目　標	（　　）	（　2.2km　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		2.2km			
【参考指標】	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明

・透水性舗装施行による路面温度の低減、防護柵、舗装施行による安全で快適な歩行空間の確保、伝統的な景観形成の推進による住民意識の高揚が図られた。

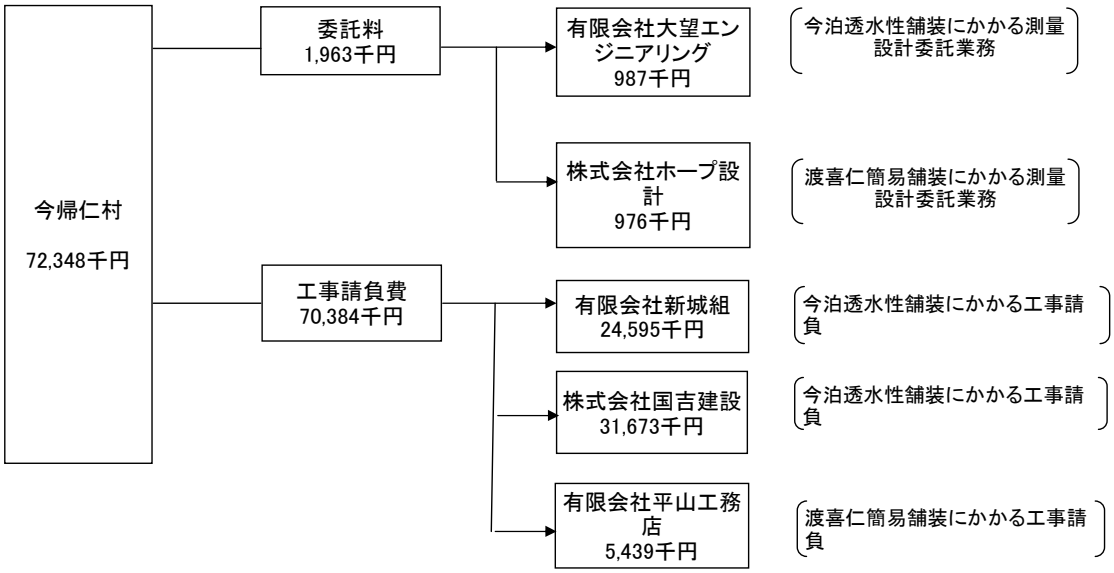
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・村が管理する道路の舗装、粉塵防止、防護柵等を整備し、歩行者が安全で歩きやすい歩行空間を確保した。 今帰仁村の伝統的な景観を残す集落内の道路を整備する上で、これまでの景観を壊すことなく、景観に配慮した整備をすることが求められる。	・今泊区は、今帰仁村景観計画の中でも景観重点地区に指定されており、今回の事業において、今帰仁城跡の城下集落の景観を強化することができた。今後の更なる景観の保全・継承を推進し、地域振興に寄与するために、継続的な景観形成事業を進めていく必要がある。

今後の取り組み方針

継続的に今帰仁村内の景観に配慮した道路整備を進めていく。
・透水性舗装（今泊）
・簡易舗装（古宇利・運天）
・防護柵設置（古宇利・運天）

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
72,348	72,348	57,878	14,470	



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は三者見積り、工事請負業者は指名競争により入札を行い、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	今帰仁村

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	３－②	環境保全美化推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章ー3ー(2)ーウ 世界水準の観光リゾート地の形成
担当部課名	福祉保健課　経済課　建設課　教育委員会		平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲー1ー(1)

事業内容

・本村の観光拠点となっている今帰仁城跡や観光地及び観光ルートの美化を実施し、観光客受け入れ体制を整える。

実施方法

■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	28,333				
	(b) 予算現額	28,333				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	―				
	A. 計 (b+d)	28,333				
B. 執行済額		25,282				
うち交付金充当額		20,226				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		89.2%				

予算の状況の説明

・不要額が発生しているが、天候に左右されたためであり、当初計画していた事業内容はすべて実施できた。

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
・今帰仁城跡及び観光地の美化 ・美化した観光ルートの路線数	目　標	（　27路線　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	27路線実施			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明

・本村の観光拠点となっている世界遺産今帰仁城跡や観光地及び観光ルートの美化を実施し、快適な観光客の受入ができた。
・不法投棄パトロール、投棄物処理、ハブ駆除対策、野犬捕獲等の活動として、ハブ捕獲器設置、野犬捕獲器設置、不法投棄のパトロールや投棄物の回収や不法投棄防止看板設置等により、事業を幅広く実施することができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（　年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
・今帰仁城跡及び観光地の美化 ・美化した観光ルートの路線数	目　標	（　）	（　27路線　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		27路線実施			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明

・ハブ捕獲器設置によりタイワンハブの拡散を抑え、野犬捕獲器設置により野良犬の徘徊を減らし、また不法投棄のパトロールや投棄物の回収及び不法投棄防止看板設置等により投棄物が減ったとにより、本村の観光地及び観光ルートの環境衛生の向上につながり、より安心して観光客が観光を楽しめようになった。

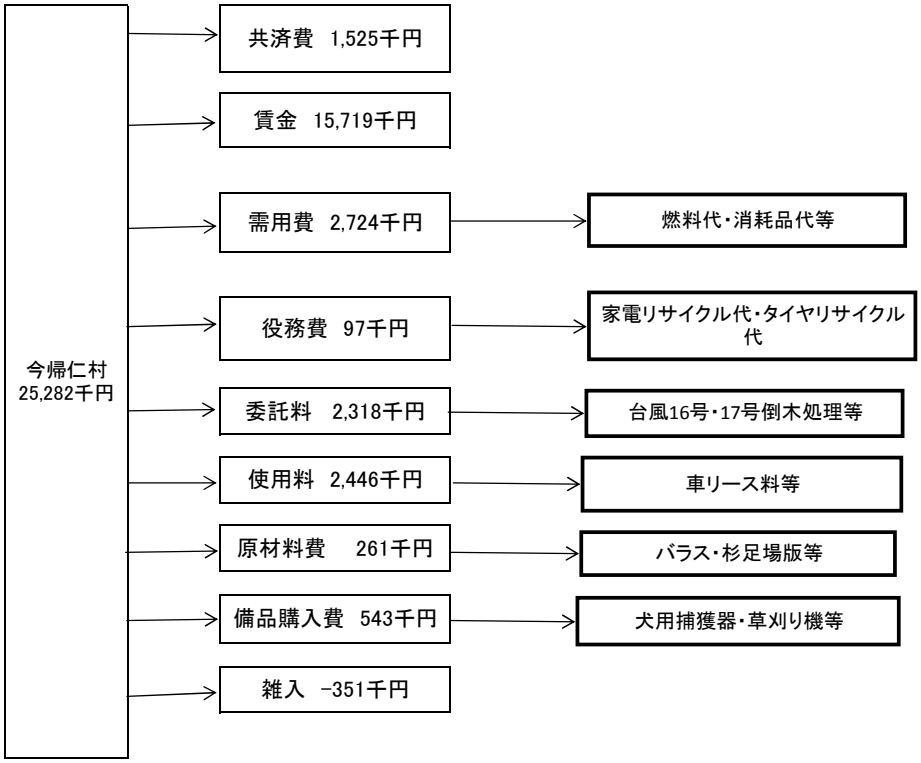
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・本村の観光拠点となっている世界遺産今帰仁城跡や観光地及び観光ルートの美化を実施し、快適な観光客の受入ができた。しかし、今帰仁城跡ガイドによる観光客等案内文化財の見学ルートにおいて沖縄の気候条件で美化整備が必要な箇所があり課題となっている。	・本村の観光拠点の世界遺産今帰仁城跡、観光地及び観光ルート及び不法投棄パトロール、投棄物処理、ハブ駆除対策、野犬捕獲等の事業を、初年度なので深くできなかった分を次年度以降も継続して美化を実施し、観光客受入を整えたい。

今後の取り組み方針

・タイワンハブをはじめ、外来生物や危険生物の駆除や、不法投棄のパトロール、投棄物の回収・処理をすることにより、本村の自然・環境を保ち、観光の村として、環境美化にいっそうの取り組みをする。本村の観光拠点等の不法投棄パトロール、投棄物処理、ハブ駆除対策、野犬捕獲等の事業を、２年度目以降も継続して実施することにより、深くできなかった分を次年度以降も継続して、より深く実施したい。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
25,846	25,282	20,226	5,056	564



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○予算規模について、事業内容に見合った適正な規模であった。賃金を3月15日までの事業期間にしたので、予算に少し残額がでた。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	今帰仁村

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	３－③	風景づくり推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章ー1ー(6)ーア 価値創造のまちづくり
担当部課名	建設課	事業実施（予定）年度	平成24年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲー1ー(1)

事業内容	・今帰仁村らしい景観を保全・継承し、さらに発展させていく景観計画の策定、その実施に向けた推進体制を行政・住民・事業者で構築して、地域振興にも寄与する景観計画を策定する。
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	3,850				
	(b) 予算現額	3,850				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	―				
	A. 計 (b+d)	3,850				
B. 執行済額		3,570				
うち交付金充当額		2,856				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		92.7%				

予算の状況の説明	・予算内での適正な執行ができた。

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
今帰仁村景観計画の策定	目　標	（　景観計画策定　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	景観計画策定			
	目　標		（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明	・景観計画（原案）を基に各字住民説明会や事業者説明会を開催し、景観計画施行に向けたパブリックコメント、村民及び事業者の景観形成に関する意識醸成に資するシンポジウムの開催、その他景観計画の策定委員会を3回開催し景観計画の策定に至った。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（　年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
景観条例の制定	目　標	（　　）	（条例の制定）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		条例制定の実施			
【参考指標】景観計画（原案）	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明	景観計画（原案）を基に景観条例（案）を作成し平成25年3月議会議決、条例制定に至った。

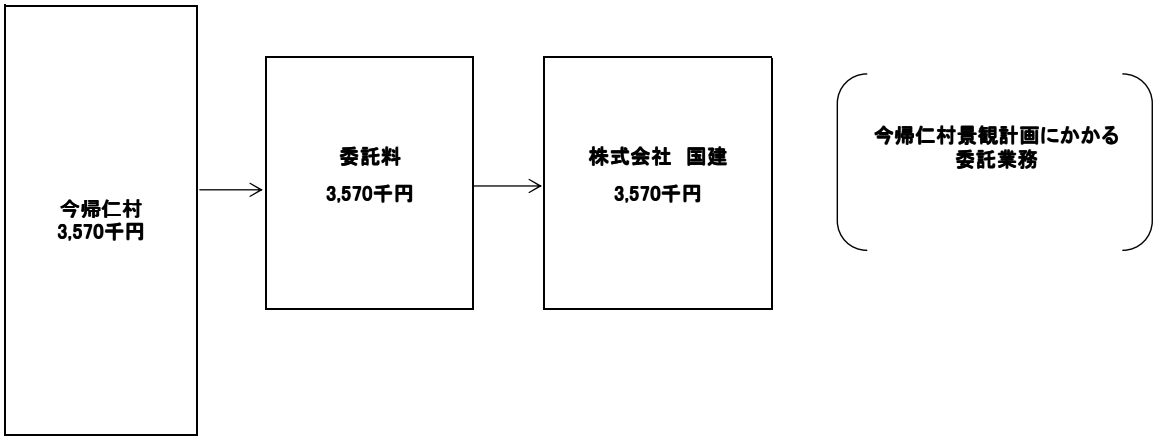
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・地域住民等の意識醸成、説明会等に時間を要することが分かった。	・地域住民等の意識醸成のため地域住民の意向を反映させながら行動計画、推進体制を確立させる。

今後の取り組み方針

・景観計画の広報紙への掲載、地域住民ワークショップの開催や景観向上を図るための取り組みを示した行動計画の作成及び景観計画の円滑かつ適正な運用を図るための推進体制を整える。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,570	3,570	2,856	714	



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点　検　項　目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	今帰仁村

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3－④	観光力基盤強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第2章ー3－（2）－ア 世界水準の観光リゾート地の形成
担当部課名	経済課　総務課　教育委員会	事業実施（予定）年度	平成２４年度～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－（1）

事業内容

・今帰仁村の知名度アップを図るため、「現代版組踊　北山の風」などのイベントを実施する。また、今帰仁村総合運動公園を高校駅伝やハーフマラソンの拠点とすることで、民泊事業の導入拡大を図り、村観光協会と連携し、観光関連産業の活性化につなげる。

実施方法

□直接実施　■委託　■補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	31,514				
	(b) 予算現額	31,514				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	―				
	A. 計 (b+d)	31,514				
B. 執行済額		31,417				
うち交付金充当額		25,134				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		99.7%				

予算の状況の説明

・当初予算作成時コース検定員の派遣費用を旅費と役務費に組んでいましたが、実情に合わず委託に変更。
・当初計画していた事業内容はすべて実施した他、成果目標の達成状況を鑑み適正であったと考えている。

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
現代版組踊　北山の風の開催、イベントの開催	目　標	（　4回講演　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	4回実施			
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明

・今帰仁・古宇利島ハーフマラソンコースと今帰仁村総合運動公園付帯コースが日本陸連から長距離競走路として公認された。
・現代版組踊等は計画通り実施及び開催ができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（年度）
現代版組踊　北山の風の開催、イベントの開催	目　標	（　　）	4回	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		4回			
	目　標	（　　）		（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明

・今帰仁・古宇利島ハーフマラソンコースと今帰仁村総合運動公園付帯コースが日本陸連から長距離競走路として公認された。
・現代版組踊等は計画通り実施及び開催ができた。

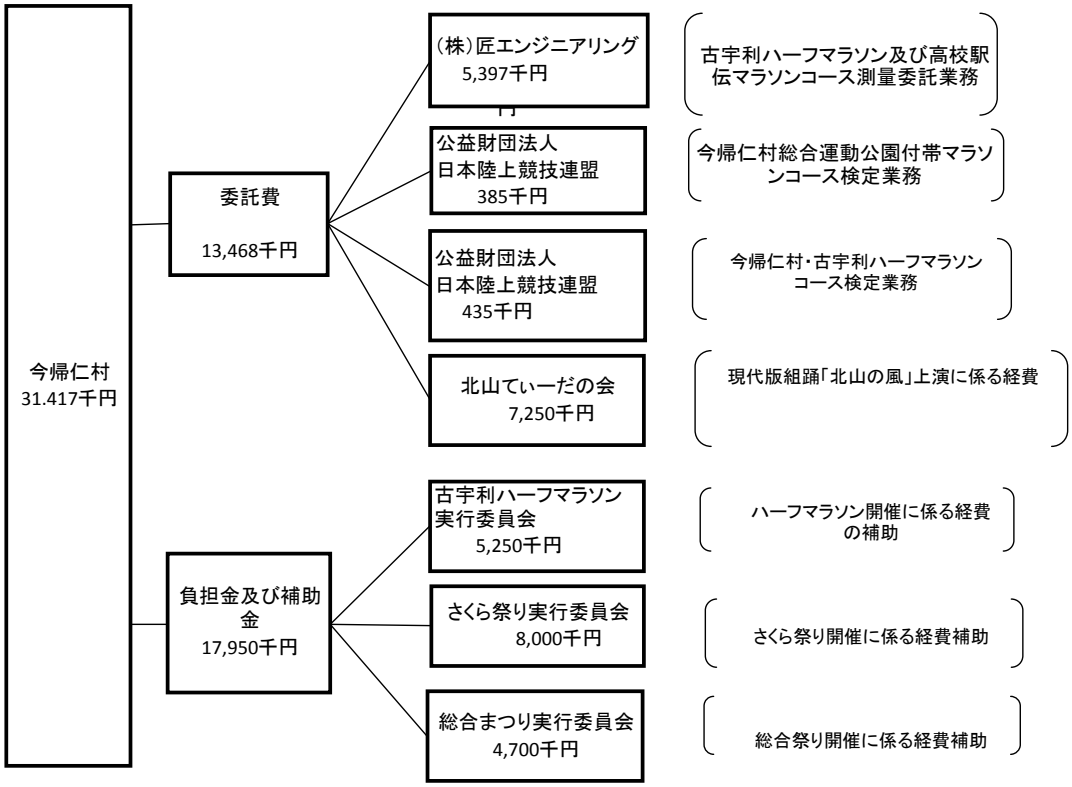
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・今帰仁・古宇利島ハーフマラソンコース・今帰仁村総合運動公園付帯マラソンコースの日本陸連の走路コース認定をうけ、参加者の自己記録の確認と参加者・観光客の増大が図られた。 ・大会が悪天候の中実施した影響で今回は、参加者が減った。すばらしい景観コースであるので、なお一層のマラソンの認知度アップを図る。 ・上演する高校生・中学生の演技力の向上が図られた。なお、村内外での公演回数を増やしなお一層の観光地として知名度アップを図る必要がある。	・走路コースの日本陸連から認定で高校駅伝は、大会の継続誘致が図られ、今帰仁・古宇利島ハーフマラソンコースは、参加者の自己記録の確認と大会のイメージアップに貢献できた。 ・将来的には、5，000人のマラソンを目指し、自主運営を達成していきたい。 ・公演回数を増やすと共に、補助金に頼らない自主運営を達成していきたい。

今後の取り組み方針

・公認コースの認定機関は5カ年間で今後も高校駅伝の大会の継続誘致と今帰仁・古宇利島ハーフマラソンコースの参加者の自己記録の確認と大会のイメージアップの為に今後も日本陸連公認走路認定コースを継続取得したい。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
31,417	31,417	25,134	6,283	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○　委託業者の選定は経験・実績が豊富でマラソンコースを熟知している業者選定。 ○　費用・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	今帰仁村

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3－⑤	観光地安全強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ウ 世界水準の観光リゾート地の形成
担当部課名	教育委員会　社会教育課	事業実施（予定）年度	平成２４年度～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容

・主要観光地である世界遺産今帰仁城跡を訪れる観光客の安全の確保を図るため、イベント時に、車両の誘導及び駐車場、横断歩道等に交通誘導員を配置する。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	5,543				
	(b) 予算現額	5,543				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	5,543				
B. 執行済額		4,284				
うち交付金充当額		3,427				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		77.3%				

予算の状況の説明

・不要額が1,266千円発生しているが、当初土木単価交通整理誘導員A、B単価で積算設計したが落札業者がおらず改めて見積もりにより積算単価設計して委託の工期が短縮したことよるもである。

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
今帰仁城跡来訪者安全対策	目　標	（城跡来訪者の安全対策）	（　）	（　）	（　）
	実　績	城跡来訪者の安全対策の実施			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明

・世界遺産今帰仁城跡は年間を通じて国内外から多くの観光客が訪れている。しかし今帰仁城跡に入場するためには観光客は県道を渡らないと入場できない為とても危険な状況でありイベントとなれば危険な状況は増すばかりである。今回交通整理誘導員を配置することにより今帰仁城跡への観光客の往来、また城跡駐車場への車の往来の安全を確保することができ、観光客等への今帰仁城跡のイメージアップが図られ、また安全安心を含めた城跡の魅力を発信することができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（27年度）
今帰仁城跡来訪者安全対策	目　標	（　）	（城跡来訪者の安全対策）	（　）	（　）	（　）
	実　績		城跡来訪者の安全対策の実施			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明

・世界遺産今帰仁城跡は年間を通じて国内外から多くの観光客が訪れている。しかし今帰仁城跡に入場するためには観光客は県道を渡らないと入場できない為とても危険な状況でありイベントとなれば危険な状況は増すばかりである。今回交通整理誘導員を配置することにより今帰仁城跡への観光客の往来、また城跡駐車場への車の往来の安全を確保することができ、観光客等への今帰仁城跡のイメージアップが図られ、また安全安心を含めた城跡の魅力を発信することができた。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・主要観光地である世界遺産今帰仁城跡を訪れる観光客の安全の確保を図るため、イベント時に、車両の誘導及び駐車場、横断歩道等に交通誘導員を配置する。しかし、イベント時に限らず土、日曜日、公休日など連休及びゴールデンウィークなど多くの観光客等が訪れており更なる安全対策が課題である。	・世界遺産今帰仁城跡を訪れる観光客の安全の確保を図るため、イベント時に限らず土、日曜日、公休日など連休及びゴールデンウィークなど安全対策が必要である。

今後の取り組み方針

・主要観光地である世界遺産今帰仁城跡を訪れる観光客の安全の確保を図るため、イベント時に、車両の誘導及び駐車場、横断歩道等に交通誘導員を配置することで、城跡の安全安心をより一層発信することができ更にリピータに期待し、継続して行きたい。また、イベント時に限らず土、日曜日、公休日など連休及びゴールデンウィークなど更なる世界遺産今帰仁城跡を訪れる観光客の安全安心の確保強化に取り組むことが必要である。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,284	4,284	3,427	857	0

今帰仁村 4,284千円 → 委託料 4,284千円 → 北部警備保障株式会社 4,284千円

（今帰仁城跡来訪者安全対策にかかる委託業務）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札方式で勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	今帰仁村

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3－⑦	バンガロー機能強化整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ウ 世界水準の観光リゾート地の形成
担当部課名	経済課	事業実施（予定）年度	平成２４年度～２５年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容	・今帰仁村森林公園のバンガロー・キャンプ場宿泊施設の機能強化を図り、観光客・村民の観光拠点施設としての基盤強化を図る。
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	4,166				
	(b) 予算現額	4,166				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	4,166				
B. 執行済額		4,166				
うち交付金充当額		3,333				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		100.0%				

予算の状況の説明	・予算内での適正な執行ができた。

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
バンガロー・キャンプ場宿泊施設の機能強化	目　標	（バンガロー・キャンプ場宿泊施設の機能強化）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	バンガロー・キャンプ場宿泊施設の機能強化が図られた。			
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明	・バンガロー塗装工事、便所改修工事、管理棟壁補修工事等を行ったことにより観光客等の受け入れ体制を強化が図られ、体験滞在型、着地型観光の魅力を向上させ、観光客の集客と観光収入の向上が期待できた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（27年度）
バンガロー・キャンプ場宿泊施設の機能強化	目　標	（　　）	（バンガロー・キャンプ場宿泊施設の機能強化）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		バンガロー・キャンプ場宿泊施設の機能強化が図られた。			
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明	・バンガロー塗装工事、便所改修工事、管理棟壁補修工事等を行ったことにより観光客等の受け入れ体制を強化が図られ、体験滞在型、着地型観光の魅力を向上させ、観光客の集客と観光収入の向上が期待できた。

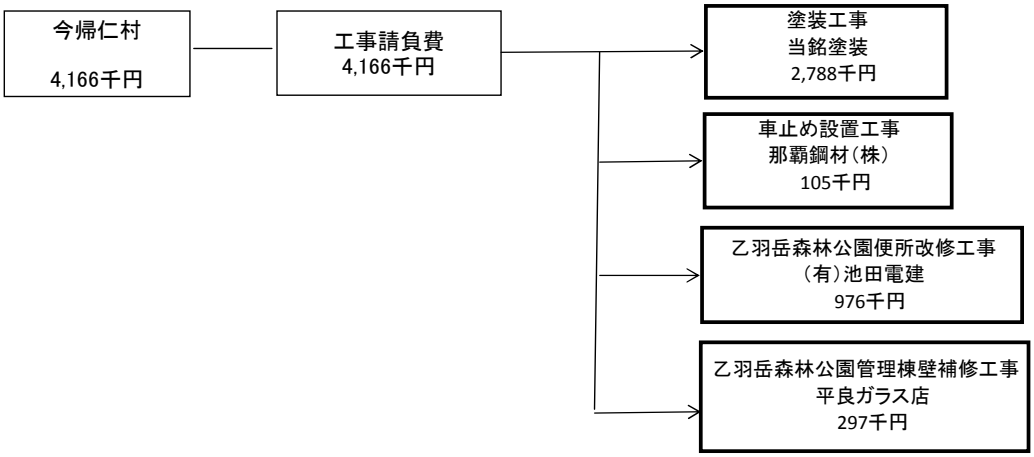
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・今後は、遊歩道を整備するにあたり自然環境に十分配慮した事業実施が必要である。	・森林公園内の遊歩道を整備し、森林浴、野鳥観察等が楽しめるようにし、観光客・村民の観光拠点としての基盤強化を図る。

今後の取り組み方針

・森林公園内の遊歩道工事を実施し、観光客・村民の観光拠点としての基盤強化を図る。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,166	4,166	3,333	833	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。 ○村内経済活性化を踏まえ、村内業者を優先して発注した。ただし、車止め設置工事は村内業者がいない為、村外の業者に発注した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	今帰仁村

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3－⑧	観光拠点整備強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ウ 世界水準の観光リゾート地の形成
担当部課名	建設課	事業実施（予定）年度	平成２４年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容

・今年度建設予定のワルミ大橋活性化施設(仮称)の建築に伴う駐車場整備の用地取得と備品を購入し、太陽光システムを導入するとともに、観光案内板を設置し、北部観光資源を結ぶ周遊ルートの拠点化を図る。

実施方法

■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	55,553				
	(b) 予算現額	55,553				
	(c) 増減額(b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計(b+d)	55,553				
B. 執行済額		49,385				
うち交付金充当額		39,508				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		88.9%				

予算の状況の説明：入札残があったためである。

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
太陽光システムの導入 観光案内板の設置　2個所 駐車場の整備28台、大型バス2台	目　標	（太陽光発電システム導入、駐車場整備の実施）	（　）	（　）	（　）
	実　績	太陽光発電システムの完成 駐車場整備完了			
ワルミ大橋活性化施設(仮称)の整備 H24年度　備品購入 H24年度　用地取得　2,695㎡	目　標	（備品整備 用地取得）	（　）	（　）	（　）
	実　績	備品整備完了 用地取得完了			

達成状況説明：・ワルミ大橋活性化施設(仮称)の整備に伴い、太陽光システムを導入することで環境にやさしい観光施設としたイメージアップを図ることができた。また、観光案内板を設置することで村内観光周遊ルートを来客者へ周知させることができた。
　また、用地取得済みにより一般駐車場・大型バス駐車場を整備することで来客者の駐車場を確保することができ、備品を購入設置したことで、来客者への農産物直売及び試食が可能となり、目標を達成することができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(27年度)
太陽光システムの導入 観光案内板の設置　2個所 駐車場の整備28台、大型バス2台	目　標		（太陽光発電システム、駐車場整備の実施）	（　）	（　）	（　）
	実　績		太陽光発電システムの完成、駐車場整備完了			
ワルミ大橋活性化施設(仮称)の整備 H24年度　備品購入 H24年度　用地取得　2,695㎡	目　標	（　）	（備品整備 用地取得）	（　）	（　）	（　）
	実　績		備品整備完了 用地取得完了			

進捗状況説明：・ワルミ大橋活性化施設(仮称)の整備に伴い、太陽光システムを導入することで環境にやさしい観光施設としたイメージアップを図ることができた。また、観光案内板を設置することで村内観光周遊ルートを来客者へ周知させることができた。
　また、用地取得済みにより一般駐車場・大型バス駐車場を整備することで来客者の駐車場を確保することができ、備品を購入設置したことで、来客者への農産物直売及び試食が可能となり、目標を達成することができた。

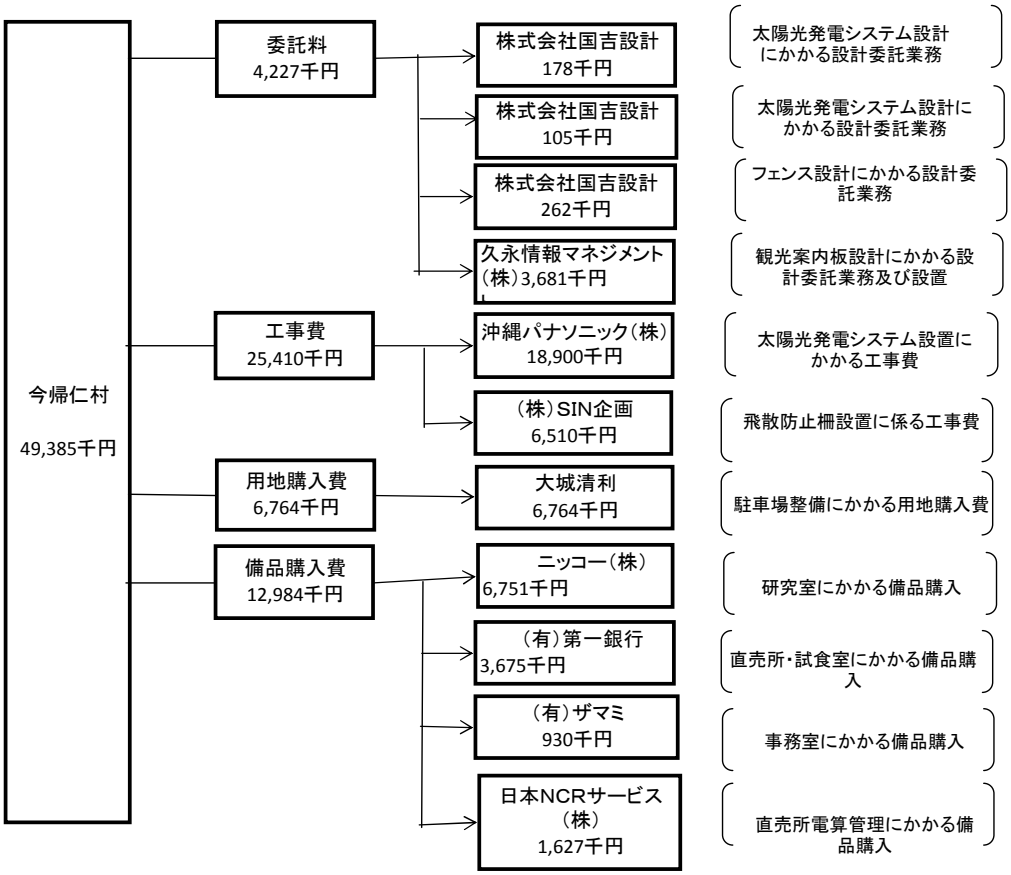
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・平成24年度、仮称：建設予定ワルミ大橋活性化施設（リカリカワルミ）の建築に伴い、駐車場整備の用地取得と備品を購入し、太陽光システムを導入するとともに、観光案内板設置を年度内に完成することができる。	・平成24年度に、観光案内板の設置を行ったが、通行車輌から見て一定方向のみ確認することができないため、逆方向から見える案内板を設置する必要がある。 ・平成25年度に観光案内版を設置することにより、観光客へ周知させ、来客数の更なる向上を図る。

今後の取り組み方針

・活性化（リカリカワルミ）の運営会社と役場が連携を図り、メディアを通じ広報活動を行う。
・平成25年度から公道及び施設内の観光案内板を整備し、観光客へ周知させる。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
49,385	49,385	39,508	9,877	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。 ○工事及び委託事業者は指名競争入札で勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	今帰仁村

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	３－⑫	体験滞在観光促進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章ー3ー(2)ーウ 世界水準の観光リゾート地の形成
担当部課名	教育委員会　学校教育課	事業実施（予定）年度	平成２４年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲー1ー(1)

事業内容	・村営グラウンド及び、兼次小学校敷地内に照明施設、屋外トイレを新設整備し、体験提供施設として利用することで、郷土芸能であるエイサー等沖縄文化の発展・継承を促進しながら、民泊事業を促進していく。
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	27,273				
	(b) 予算現額	29,937				
	(c) 増減額 (b-a)	2,664				
	(d) 前年度繰越額	ー				
	A. 計 (b+d)	29,937				
B. 執行済額		29,937				
うち交付金充当額		23,949				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		100.0%				

予算の状況の説明	・兼次小学校屋外トイレの工事で躯体等の見直しを行ったため、当初設計より工事請負費を増額した。

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
村営グラウンド・兼次小学校運動場への照明施設等の整備	目　標	（照明施設等の整備）	（　）	（　）	（　）
	実　績	実施が行えた			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明	・村営グラウンド・兼次小学校運動場への夜間照明施設整備が完了した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（年度）
村営グラウンド・兼次小学校への照明施設等の整備	目　標	（　）	（照明施設等の整備）	（　）	（　）	（　）
	実　績		実施が行えた			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明	・村営グラウンド・兼次小学校運動場への夜間照明施設整備が完了したことにより、伝統文化に触れ合う機会が増え、伝統芸能の継承の推進が行えた。

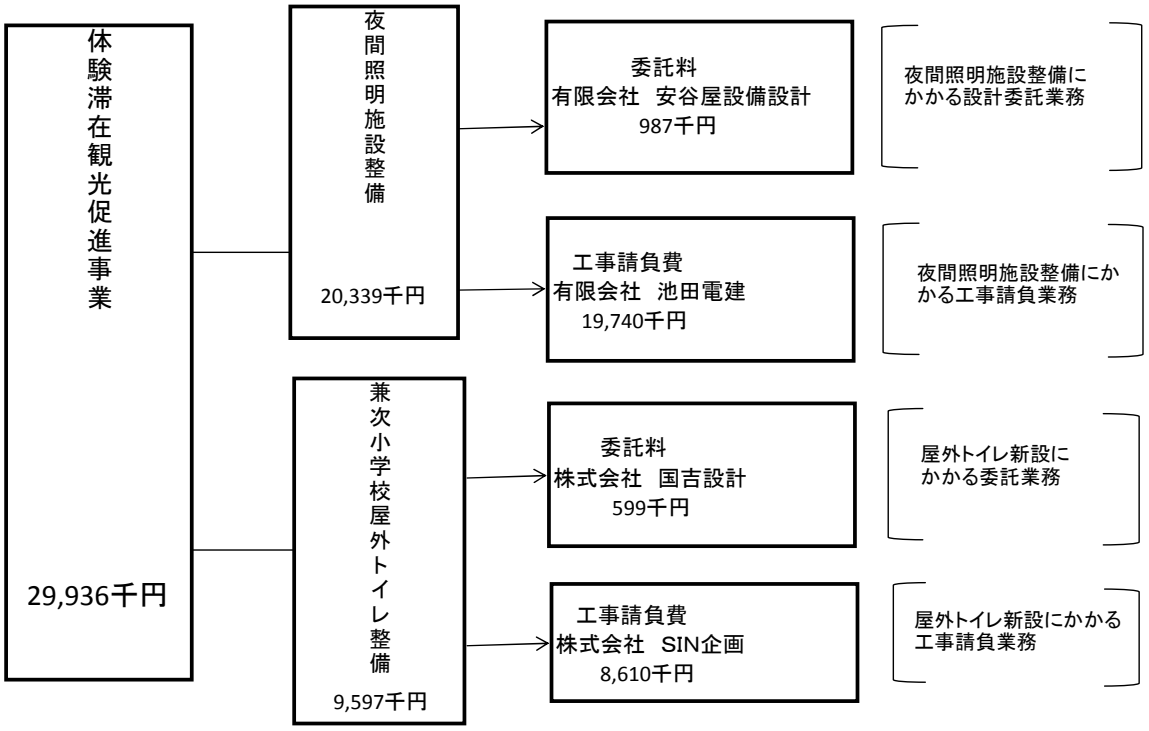
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・夜間照明の設置運営上、利用時間の制限を設け、近隣住民の生活の妨げにならないよう努める。	・村営グランド及び兼次小学校に照明施設・屋外トイレを新設整備を行った事により、今後郷土芸能であるエイサー等沖縄文化の発展・継承が夜にも行える。

今後の取り組み方針

・整備後に伴い、本施設を郷土芸能であるエイサー等沖縄文化の発展・継続の利用推進を行っていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
29,936	29,936	23,949	5,987	



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○予算規模について、事業内容に見合った適正な規模であった。 ○工事及び委託事業者は基本的に指名競争入札方式で勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	今帰仁村

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3－⑬	観光ガイドブック作成事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－イ 世界水準の観光リゾート地の形成
担当部課名	経済課	事業実施（予定）年度	平成２４年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容

・観光客等に本村施設の情報提供を行うため、観光ガイドブック・観光マップ・PRポスターを作成し、本村の魅力を発信する。

実施方法

■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	2,000				
	(b) 予算現額	2,000				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	2,000				
B. 執行済額		1,974				
うち交付金充当額		1,579				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		98.7%				

予算の状況の説明：・予算内で適正通り執行ができた。

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
・観光ガイドブック　:28,000部	目　標	（28,000部）	（　）	（　）	（　）
	実　績	28,000部			
・観光マップ　:40,000部	目　標	（40,000部）	（　）	（　）	（　）
	実　績	40,000部			
・PRポスター　:1,000部	目　標	（1,000部）	（　）	（　）	（　）
	実　績	1,000部			

達成状況説明：・観光ガイドブック等を作成し、観光客等に本村施設の情報提供を行うことにより、本村の魅力を発信し観光客の集客と観光収入増に繋がった。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（27年度）
・観光ガイドブック配布箇所数：10箇所 ・観光マップ配布箇所数 ：10箇所 ・PRポスター配布箇所数 ：20箇所	目　標	（　）	（目標部数配布）	（　）	（　）	（　）
	実　績		目標部数配布			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：・観光ガイドブック等を作成し、観光客等に本村施設の情報提供を行うことにより、本村の魅力を発信し観光客の集客と観光収入増に繋がった。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・観光ガイドブックやマップに関して、観光地の撮影とその編集・調整に時間がかかった。	・さらなる観光客の集客と観光収入の向上を図るため、村外観光地においても本村の魅力を発信できるようにする。

今後の取り組み方針

・観光客等に本村施設の情報提供、本村の魅力を発信していくため、村外観光地においても情報提供を行い観光収入の向上に努める。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,974	1,974	1,579	395	0

今帰仁村
1,974千円

需用費
1,974千円

「今帰仁村観光ガイドブック・ポスター・マップ」印刷製本
（有）サンエス
1,974千円

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○予算規模について、事業内容に見合った適正な規模であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	今帰仁村

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3－⑭	今帰仁城跡駐車場安全強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ウ 世界水準の観光リゾート地の形成
担当部課名	教育委員会　社会教育課	事業実施（予定）年度	平成２４年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容

・世界遺産今帰仁城跡の駐車場をアスファルト舗装し、区画線及び安全対策をする事で利用者の安全性と快適性の向上を図る。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	25,725				
	(b) 予算現額	14,700				
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 11,025				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	14,700				
B. 執行済額		14,700				
うち交付金充当額		11,760				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		100.0%				

予算の状況の説明

・不要額が11,025千円発生しているが、入札残及び当初、簡易舗装と考えていた第三駐車場が予測がつかない状況が生じた。

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
今帰仁城跡駐車場のアスファルト舗装及び安全対策整備	目　標	（駐車場のアスファルト舗装及び安全対策整備）	（　）	（　）	（　）
	実　績	駐車場のアスファルト舗装整備実施			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明

・世界遺産今帰仁城跡の駐車場をアスファルト舗装し、区画線及び安全対策をする事で利用者の安全性と快適性の向上を図る事ができたが:第3駐車場が未整備のため今後次年度で実施設計のうえ、改修工事を行う。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（27年度）
今帰仁城跡駐車場のアスファルト舗装及び安全対策整備	目　標	（　）	（駐車場のアスファルト舗装及び安全対策整備）	（　）	（　）	（　）
	実　績		駐車場のアスファルト舗装整備実施			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明

・世界遺産今帰仁城跡の駐車場をアスファルト舗装し、区画線及び安全対策をする事で利用者の安全性と快適性の向上を図る事ができたが:第3駐車場が未整備のため今後次年度で実施設計のうえ、改修工事を行う。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・当初、簡易舗装と考えていた第三駐車場が予測がつかない状況が生じた。駐車場の一部が地表が落ち込んで深い空洞ができ、水をはけない状況化でため池状況であった。このことから雨水処理等現場の把握が課題である。	・次年度に第三駐車場を調査測量設計委託により雨水処理等現場の把握をし改修工事を行う必要がある。

今後の取り組み方針

・世界遺産今帰仁城跡の第4駐車場をアスファルト舗装し、区画線及び安全対策をする事で利用者の安全性と快適性を改善することができた。次年度で第3駐車場を実施設計のうえ、改修工事を実施し更なる利用者の安全性の向上を図る。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
14,700	14,700	11,760	2,940	0

今帰仁村 14,700千円 → 工事請負費 14,700千円 → 有限会社平山工務店 14,700千円

（今帰仁城跡駐車場アスファルト舗装にかかる請負工事）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事請負事業者は指名競争入札方式で勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	今帰仁村

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3－⑮	民泊・体験型観光受け入れ基盤整備調査事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－（2）－ウ 世界水準の観光リゾート地の形成
担当部課名	経済課	事業実施（予定）年度	平成２４年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－（1）

事業内容	・民泊・体験型観光の運用体制構築・基盤整備のための基本調査を実施する。
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	2,180				
	(b) 予算現額	2,180				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	2,180				
B. 執行済額		2,180				
うち交付金充当額		1,744				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		100.0%				

予算の状況の説明：・当初計画していた事業内容はすべて実施した、目標の達成状況を鑑みて適正であったと考える。

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
・ヒアリング調査 ・旅行社訪問調査 ・民泊説明会開催回数 ・調査報告書：50部	目　標	旅行者訪問（説明会の開催）	（　）	（　）	（　）
	実　績	旅行者26社 説明会3回			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：・村民向けヒアリング調査は、12件の家庭に電話で民泊に関する知識、意識の調査を実施し、村民の民泊への知識、意識、不安等現状を把握できた。また、民泊・体験型観光の市場動向・修学旅行先決定のプロセスの調査を行った。また、3回の民泊説明会を開催し、実際に民泊受入れ家庭として、40軒の受入希望者を集めた。また、この説明会を通して、今後の指針に役立つ、村民の意見を把握できた。旅行社訪問調査に関しては、那覇にある主要旅行社6支店、沖縄への送客が多い関東、関西圏の旅行社支店20社を訪問し、ヒアリング調査、同時に今帰仁村における民泊・体験型観光のPRを行った。村内の体験型観光促進の為、体験型アクティビティーに使用可能なフィールドの調査を専門家を招き協力して実施した。上記調査内容、調査結果、調査結果を受けての今後の指針、提言としてまとめた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（27年度）
運用体制構築・基盤整備のための課題等把握	目　標	（　）	（運用体制構築・基盤整備のための課題の把握）	（　）	（　）	（　）
	実　績		課題の把握ができた			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：・実施した民泊・体験型観光基盤整備に向けた調査により、民泊の市場動向、リスクを把握することができ、民泊・体験型観光に関して後発である今帰仁村が今後どのように基盤整備を行い、市場に参入していくべきか、方針を策定するのに必要な情報を集めることができた。旅行社への訪問調査では、修学旅行の候補地として具体的に求められている要素が把握でき、この調査によって明らかになった情報を基に、より効率的で効果的な今帰仁村ならではの民泊・体験型観光基盤整備の計画策定に繋げる事ができる。また、ヒアリングと同時に旅行社へのPRを行ったことにより、早速多数の問い合わせが入ってきている状況である。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・民泊・体験型観光基盤整備に向けた調査によって、隣接する本部・名護で民泊事業を展開する民間企業との関係性や、民泊受入れ希望家庭の旅館業法における営業許可をいかに推進するかといった難しい問題も明らかになってきた。また、民泊において本来主役となるべき「農林漁家」の参加希望者がまだまだ少ない事も今回の調査によって明らかになった。今帰仁村の基幹産業である農業従事者の参加をいかに促進するかも今後の大きな課題である。これらの課題を解決していく事を今後の基盤整備、実際の受入れ事業の主軸としていかなければならない。	・本調査事業によって、今帰仁村において民泊・体験型観光を推進していく為に克服しなければならない課題、今帰仁村ならではの魅力・体験型アクティビティーとして開発可能なフィールド等、情報は明らかになったので、これから具体的な民泊・体験型観光の基盤整備事、PR活動、実際受け入れ事業へと活かしていきたい。

今後の取り組み方針

・本調査事業によって明らかになった課題の克服とより効果的、効果的な基盤整備、実際の受入れ事業計画策定と同時に積極的なPR活動を行う。
具体的には、本部、名護における民泊との住み分け（ルール作り）、旅行社からの予約受付体制の確立、予約受付のルール策定、受入れ家庭の旅館業営業許可取得促進、受入マニュアル作成、受入れ家庭レベル向上の為の講習会・勉強会開催、村内での可能な体験アクティビティーの開発、整理、PR活動を行う。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,180	2,180	1,744	436	0

今帰仁村 2,180千円 → 委託料 2,180千円 → 今帰仁村観光協会 2,180千円

（民泊・体験型観光基盤整備調査にかかる委託業務）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	今帰仁村

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3－⑯	今帰仁城跡多言語リーフレット作成事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ウ 世界水準の観光リゾート地の形成
担当部課名	教育委員会　社会教育課	事業実施（予定）年度	平成２４年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容

・世界遺産今帰仁城跡は年間を通じて国内外から多くの観光客が訪れている。そのため日本語のみならず多言語リーフレットを作成し城跡の魅力を発信する。

実施方法

■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	4,000				
	(b) 予算現額	4,000				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	4,000				
B. 執行済額		3,885				
うち交付金充当額		3,108				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		97.1%				

予算の状況の説明：・不要額が115千円発生しているが、入札残によるもである。

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
今帰仁城跡多言語リーフレットの作成:5カ国語、235,000部	目　標	（リーフレット5カ国語：235,000部作成）	（　）	（　）	（　）
	実　績	235,000部作成済			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：・世界遺産今帰仁城跡は年間を通じて国内外から多くの観光客が訪れている。そのため村内外の拠点施設やレンタカー店へ日本語のみならず多言語リーフレットを作成し配布することにより、国内外へ今帰仁城跡の魅力を発信することができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（27年度）
今帰仁城跡多言語リーフレットの配布箇所数：12箇所	目　標	（　）	（12個所）	（　）	（　）	（　）
	実　績		12個所済			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：・世界遺産今帰仁城跡は年間を通じて国内外から多くの観光客が訪れている。そのため村内外の拠点施設やレンタカー店へ日本語のみならず多言語リーフレットを作成し配布することにより、国内外へ今帰仁城跡の魅力を発信することができた。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・世界遺産今帰仁城跡は年間を通じて国内外から多くの観光客が訪れていることから今回の多言語リーフレットを作成し県内の12箇所に配布し城跡の魅力を発信することができた。	・世界遺産今帰仁城跡は年間を通じて国内外から多くの観光客が訪れていることから今回の多言語リーフレットを作成し県内の12箇所に配布し城跡の魅力を発信することができた。

今後の取り組み方針

・世界遺産今帰仁城跡は年間を通じて国内外から多くの観光客が訪れていることから今回の多言語リーフレットを作成し県内の12箇所に配布し城跡の魅力を発信することができた。今後とも世界遺産である今帰仁城跡の多言語リーフレットの配布を県内に継続的に配布を行う。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,885	3,885	3,108	777	0

今帰仁村 3,885千円 → 物品購入費 3,885千円 → 沖縄高速印刷株会社 3,885千円

（今帰仁城跡の多言語リーフレットの購入）

配布個所
①OTSレンタカー　②オリックスレンタカー　③ニッポンレンタカー　④トヨタレンタカー　⑤日産レンタカー
⑥ABCレンタカー　⑦SKYレンタカー　⑧マツダレンタカー　⑨道の駅許田（名護市）　⑩海洋博（本部町）
⑪グスク交流センター　⑫歴史文化センター

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○物品購入事業者は指名競争入札方式で勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	今帰仁村

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	5-①	今帰仁村南米移住者子弟研修生受入事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章ー4ー(1)ーア 世界との交流ネットワークの形成
担当部課名	総務課	事業実施（予定）年度	平成24年度～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲー7ー(1)

事業内容

・南米諸国の村出身者の海外移住者子孫（2世・3世）を研修生として受け入れ、村の歴史・文化（伝統芸能・三味線・エイサー・ウチナーロ）等の体験を通し国際交流の促進を図り、南米諸国との架け橋となる人材を育成する。
（平成24年度実施内容　琉球舞踊研修・三味線研修・書道研修・村内及び県内世界遺産視察・今帰仁城跡歴史ガイド受講・しまくとば講座・村内保育園研修）

実施方法

□直接実施　□委託　□補助　■負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	1,000				
	(b) 予算現額	1,100				
	(c) 増減額 (b-a)	100				
	(d) 前年度繰越額	ー				
	A. 計 (b+d)	1,100				
B. 執行済額		940				
うち交付金充当額		752				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		85.5%				
予算の状況の説明		・当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。 ・予算施行については、事業対象外かあり執行率が減となっている。				

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
研修生受入数：1人	目　標	（研修生受入：1人）	（　）	（　）	（　）
	実　績	研修生受入：1人			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：
・事業達成状況について、計画とおり実施し、伝統芸能及び三味線研修等を行った。
・移住者の子孫に当たる2世・3世に沖縄の文化や伝統芸能・村内及び県内の世界遺産等の研修を行い。村と南米諸国との架け橋となる人材育成が行われた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（年度）
国際交流活動による海外からの受入：1人	目　標	（　）	（1人）	（　）	（　）	（　）
	実　績		1人			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：
・平成24年度については、研修生1人を受け入れ、沖縄の文化や伝統芸能等の研修を実施した。滞在期間中、地域の皆様に受け入れられ、子供から高齢者と直接ふれあい、沖縄の文化を肌で体験することができた。伝統芸能の三味線や琉球舞踊の習得もでき、本国へ帰国後は、地元青年部のリーダーとして沖縄・今帰仁村の架け橋となる先導的役割を果たす人材育成に貢献ができた。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・研修実施にあたり、研修生対象者が2世・3世の世代となっているが、受入先（宿泊先世帯の高齢化に伴い、南米諸国との交流が希薄になっている）等の確保、研修生自体の言語能力の向上が必要である。（日本語及びウチナーロでの研修中のコミニケーション） 今回の研修生については、受入先及び言語能力ともクリアでき沖縄の文化や伝統芸能等充実した研修が行えた。	・南米諸国へ移住開始後1世紀が経過する中、現地の現存者が高齢化する中、推薦する研修生の現地での日本語会話等の研修、研修中滞在先となる親戚等の確保の改善が必要である。

今後の取り組み方針

・現地今帰仁村人会と連携を図り、研修生選考に際は、宿泊先確定、日本語会話の研修など、研修開始までに事前研修を行い、今帰仁村または沖縄県の現状、歴史、文化等の予習が必要である。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,052	940	752	188	112

今帰仁村
1,052千円

→ **負担金・補助金** →

子弟研修生1名
1,052千円

内　訳

渡航費　＝419,700 円　→　（旅行会社　ウィック沖縄）
保険費　＝35,370 円　→　（大同火災海上保険（株））
書籍代　＝54,200 円
日当　＝178,000 円
家賃・光熱費　＝222,500 円　→（宿泊先）
講師謝礼金　＝30,000 円　→　（三味線・琉舞・習字・史跡案内
講師謝礼）
雑費　＝　735 円　→　（振込手数　銀行へ）
報告会　＝112,351 円　（対象外）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点　検　項　目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	